

運動部活動に参加する生徒の進学状況 ～A高校ラグビー部の進路指導実践～

辺土名齊朝*

Situation of the next stage of education for student athletic club ～ Practice course guidance for A high school rugby club ～

Tadatomo HENTONA*

要 旨

本研究の目的は沖縄県立A高等学校校の運動部活動に参加するラグビー部の進学先と就職先を明らかにする事である。平成14年度～平成23年度ラグビー部卒業生(104名)及び平成23年度1・2年生(36名)合計140名を対象とした。卒業生の名簿作成, 進学先, 就職先の調査を行った。合わせて, 競技推薦で進学した生徒の調査も実施した。また, 3年生の個人面談, 1・2年生への進路意識調査, 部活動での学習活動, 進路意識の変化についてまとめた。

A高校ラグビー部を卒業した140名中87名が大学へ進学した。なかでも65名が競技推薦で進学している。大学へ進学する一つの手段として競技継続を活用する考えもある。しかし, 将来の目標とする職業と関連した大学, 学部・学科を選択しなければ就職活動に困難をきたす可能性がある。早期の段階から「キャリア教育」を促し進路先を決定する事で学習意欲が高まり, 学習活動への取り組み方も変化する。

キーワード: 進路先, 就職先, 早期決定, 学力向上

Abstract

The purpose of this research is to clarify the destination and the place of employment in the rugby club participating in the movement section activity of Okinawa Prefectural A High School. We targeted a total of 140 people from the 2002 to the 2011 rugby department graduates (104) and the 2011 second and second graders (36). We also conducted a survey of students who advanced to the competition recommendation. In addition, we summarized the 3rd grade individual interview, the career consciousness survey for the 1st and 2nd grade students, the learning activities in the club activities and the change in career consciousness.

87 people out of the 140 high school rugby club graduated to university. Among them, 65 people have advanced to competition recommendation. There is also an idea to utilize continuation of the game as a means to go on to university. However, if you do not select universities, faculties or departments related to the future target occupation, there is a possibility that job hunting will be difficult. By prompting "career education" from the early stage and deciding the way to go, the motivation for learning will increase and the approach to learning activities will change.

Keywords: career education, Future goal, early decision, improvement in academic ability.

* 公立大学法人名城大学大学院 国際文化研究科 〒905-8585 沖縄県名護市字為又1220-1 Graduate School of International Cultural Studies Public corporate university Meio University 1220-1, Biimata Nago City Okinawa, 905-8585, Japan

1. はじめに

本研究は生徒のキャリア教育に対する問題関心にもとづいており、本稿はその初期段階の作業として、学校卒業後の就職と生活に関する展望と実態を調査し、進路実現に向けて基礎的な資料の作成を行う。

近年、「キャリア教育」への関心が高まっているが、本校においても「キャリア教育」の一環として総合学習の時間を活用して1学年時に就業体験学習を行っている。文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」がキャリア教育を「職業観・勤労観を育てる教育」と端的に表現したこともあり、その「職業観」をどのように捉え、育成するかについて議論が活発に行われるようになった（寺田，2005）。また、「学校教育の中における進路指導の本来の機能は、生徒が将来どのように生きるかという生き方の指導が中核にあるべきものである。（山口，1986a）と指摘し、さらにわが国の中・高校の進路指導実践においてはこの「生き方の指導」としての「キャリア教育」の在り方に対する関心が高まっている。（山口，1986b）そこで、本研究は沖縄県のA高校ラグビー部における進学先と就職先を明らかにする事で「キャリア教育」の一端とし、望ましい進路指導を行い、生徒への職業に対する進路意識を持たせる。

沖縄県北部地区の進学校であるA高校は部活動加入率が80%と盛んに活動しており学力向上との文武両道が求められる。今年度、本校では学力向上対策研究指定校を受け、各教科で学力の向上に努めている。本校の進路指導の大きな特徴として名桜大学が公立化したことで国公立大の合格者が激増していることがあげられるが同時に県内私立大学への進学が減少しているため、4年制大学合格者総数は減少している傾向にある。更に専門学校進学者は昨年より増加（就職難から専門学校意識が高まっている事実もある）したものの、全体の20%前半であり、まだ専門学校よりは大学へという意識が強いと言える。昨年の卒業生313名中進学決定者は252名、就職決定者8名となり、進路決定者は合わせて260名となる。進路未決定者は53名となり、約1/6の生徒が未決定者となる。また、浪人して希望大学への進学を目指すものがある。

A高校の運動部活動は活発的に行われ、沖縄県内において各競技が上位入賞する活躍をしている。また、部活動終了後も学業に集中し、進学率も非常に高い。なかでも、ラグビー部は沖縄県内11連覇し、全国出場している伝統校である。しかし、卒業後の進学先や進学率について明らかにされた資料等は残されておらず、見受けられない。沖縄県内・県外への大学進学後も競技を継続した生徒、その後も社会人や実業団等で選手として活躍している卒業生、あるいは競技を離れ、大学や専門学校へ進学した卒業生などが現在、どのような職業に就き活動を

しているのか調査研究を行う。さらに在校生（平成23年度在学）の進学状況についても検討することで、部員や競技者の学習意欲、進路意識向上、学習習慣の確立と定着を図る資料とする。

2. 目的

本研究は沖縄県立A高等学校校の運動部活動に参加するラグビー部の進学先と就職先を明らかにする事で進路資料を得る事を目的とする。

3. 研究方法

対象：平成14年度～平成23年度ラグビー部卒業生(104名)及び在校生（36名）

日時：平成23年6月～平成24年3月

方法：①卒業生の名簿作成、進学先、就職先調査

②競技を継続した生徒の進学先

③3年生の個人面談について

④1・2年生の進学意識調査（8月，12月）

⑤部活動での学習活動

⑥進路意識の変化について

4. 調査結果と考察

(1) 卒業生の進学調査

平成14年度～平成23年度の卒業生（140名）の調査を行った（表1～表10）。

表1 平成14年度 卒業生進学就職先（13名）

| | 氏名 | 進学先 | 選別 | 就職先 |
|----|-----|--------------|----|---------|
| 1 | R.K | 進学先不明 | | 不明 |
| 2 | E.T | 八光館 | 就職 | 旅行代理店 |
| 3 | S.Y | 名桜大学（ラグビー） | 大学 | 三菱重工 |
| 4 | K.H | 国際武道大学（ラグビー） | 大学 | 富士ゼロックス |
| 5 | Y.H | 大阪体育大学（ラグビー） | 大学 | サニックス |
| 6 | T.M | 国際武道大学（ラグビー） | 大学 | 富士ゼロックス |
| 7 | Y.M | 海邦電子ビジネス専門学校 | 専門 | 中部病院事務 |
| 8 | Y.U | 関東学院大学（ラグビー） | 大学 | 沖縄県警 |
| 9 | S.N | 流通経済大学（ラグビー） | 大学 | 不明 |
| 10 | S.M | 人間環境大学（ラグビー） | 大学 | 佐川急便 |
| 11 | K.T | 日本文理大学 | 大学 | 名護市役所 |
| 12 | T.H | 熊本総合医療福祉学院 | 専門 | 名護消防 |
| 13 | T.N | NBUメディカルカレッジ | 専門 | レントゲン技師 |

表2 平成15年度 卒業生進学就職先 (15名)

| | 氏名 | 進学先 | 選別 | 就職先 |
|----|-----|----------------|----|-----------|
| 1 | T.K | 沖縄大学 | 大学 | 運送業 |
| 2 | Y.K | 城西大学 (ラグビー) | 大学 | 補充教員 (宮工) |
| 3 | M.M | 崇城大学 (ラグビー) | 大学 | 航空整備士 |
| 4 | U.M | 琉球大学 | 大学 | 琉球大学大学院 |
| 5 | N.M | 九州共立大学 (ラグビー) | 大学 | 留学サポート |
| 6 | H.M | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | 教員志望 |
| 7 | S.H | 那覇日経ビジネス工学院 | 専門 | サニックス |
| 8 | Y.N | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | 伊江中 (非常勤) |
| 9 | Y.M | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | 薬剤師 |
| 10 | S.H | 大阪体育大学 (ラグビー) | 大学 | 旅行代理店 |
| 11 | N.K | 愛知工業大学 | 大学 | 県庁職員 |
| 12 | T.Z | 帝京大学 (ラグビー) | 大学 | 海外ホテル業 |
| 13 | H.M | 進学先不明 | | 不明 |
| 14 | Y.Y | メディカルトレーナー専門 | 専門 | 整体師 |
| 15 | M.K | 西日本工業大学 (ラグビー) | 大学 | 九産大付属高校 |

表3 平成16年度 卒業生進学就職先 (14名)

| | 氏名 | 進学先 | 選別 | 就職先 |
|----|-----|---------------|----|---------|
| 1 | T.K | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | 教員志望 |
| 2 | S.Y | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | 小学校教員志望 |
| 3 | S.M | 沖縄調理師専門学校 | 専門 | ピザーラ |
| 4 | S.O | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | 大阪電気 |
| 5 | M.O | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | OAS航空 |
| 6 | Y.N | 山口短期大学 | 大学 | 保育士 |
| 7 | Y.Y | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | アルバイト |
| 8 | K.O | 日本美容専門学校 | 専門 | アルバイト |
| 9 | K.T | 沖縄調理師専門学校 | 専門 | ホテル調理師 |
| 10 | R.P | 職業訓練学校 | 専門 | 電気工務店 |
| 11 | T.T | 沖縄リハビリテーション | 専門 | 勝山病院介護士 |
| 12 | M.O | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | アルバイト |
| 13 | S.Y | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | トヨタ自動食器 |
| 14 | S.K | 那覇日経ビジネス工学院 | 専門 | うるま市役所 |

表4 平成17年度 卒業生進学就職先 (12名)

| | 氏名 | 進学先 | 選別 | 就職先 |
|----|-----|---------------|----|--------|
| 1 | K.G | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | 運送業 |
| 2 | K.U | 大東文化大学 (ラグビー) | 大学 | 沖縄県警 |
| 3 | K.O | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | 大同火災 |
| 4 | H.H | 沖縄リハビリテーション | 専門 | 介護士 |
| 5 | Y.N | 東亜大学 | 大学 | 自衛隊 |
| 6 | K.T | 沖縄職業能力開発大学校 | 専門 | 土木作業員 |
| 7 | S.M | 国際武道大学 (ラグビー) | 大学 | ワセダクラブ |
| 8 | T.H | 国際電子ビジネス | 専門 | 重信電気 |
| 9 | Y.K | 川上給油所 | 就職 | 沖縄伊藤園 |
| 10 | S.A | 東亜大学 | 大学 | 理学療法士 |
| 11 | Y.Z | 浪人 | | 学生 |
| 12 | S.G | 沖縄大学 (ラグビー) | 大学 | アルバイト |

表5 平成18年度 卒業生進学就職先 (17名)

| | 氏名 | 進学先 | 選別 | 就職先 |
|----|-----|-----------------|----|------------|
| 1 | S.M | 大東文化大学 (ラグビー) | 大学 | 残波リゾートホテル |
| 2 | T.S | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | うるま市役所 |
| 3 | K.K | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | トレーナー |
| 4 | S.Y | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | リウボウ那覇 |
| 5 | Y.T | 大阪体育大学 (ラグビー) | 大学 | 東江中 (臨) |
| 6 | K.I | 大阪医療専門学校 | 専門 | 看護師 |
| 7 | S.N | 明治大学 (ラグビー) | 大学 | ヤマハ発動機 |
| 8 | R.H | 流通経済大学 (ラグビー) | 大学 | 東江中 (臨) |
| 9 | M.Y | 立正大学 (ラグビー) | 大学 | NZ留学中 |
| 10 | A.I | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | 名護市役所 |
| 11 | K.H | 流通経済大学 (ラグビー) | 大学 | サニックス |
| 12 | S.S | パンフィックテクノカレッジ学院 | 専門 | 名護電気 |
| 13 | S.N | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | アルバイト |
| 14 | Y.S | 那覇日経ビジネス工学院 | 専門 | J A 那覇 |
| 15 | R.M | 大阪医療技術学園専門学校 | 専門 | 鍼灸師 |
| 16 | D.T | 東洋学園大学 | 大学 | 名護市役所 |
| 17 | K.T | (株) 国際システム | 就職 | (株) 国際システム |

表6 平成19年度 卒業生進学就職先 (8名)

| | 氏名 | 進学先 | 選別 | 就職先 |
|---|-----|---------------|----|--------|
| 1 | T.O | 浦添職業訓練学校 | 専門 | 岐阜大学 |
| 2 | M.K | 那覇日経ビジネス工学院 | 専門 | 海上保安庁 |
| 3 | T.K | 東海大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 4 | K.K | 明治大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 5 | E.H | 大阪体育大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 6 | K.T | 琉球セメント | 就職 | 琉球セメント |
| 7 | Y.K | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 8 | S.M | 大阪経済法科大学 | 大学 | 学生 |

表7 平成20年度 卒業生進学就職先 (21名)

| | 氏名 | 進学先 | 選別 | 就職先 |
|----|-----|---------------|----|-----------|
| 1 | GT | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 2 | A.S | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 3 | R.M | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 4 | Y.M | 那覇日経ビジネス工学院 | 専門 | 海上保安庁 |
| 5 | Y.K | ホスピタリティツーリズム | 専門 | 介護士 |
| 6 | K.I | 那覇日経ビジネス工学院 | 専門 | 沖縄県警 |
| 7 | S.U | 那覇日経ビジネス工学院 | 専門 | 名護消防士 |
| 8 | Y.H | 福岡柔道整復専門学校 | 専門 | N T T ドコモ |
| 9 | K.I | 那覇日経ビジネス工学院 | 専門 | 名護市役所 |
| 10 | Y.K | 沖縄アカデミー専門学校 | 専門 | 介護士 |
| 11 | K.M | 帝京大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 12 | D.I | 東海学園大学 | 大学 | 学生 |
| 13 | S.U | 沖縄デザイナー専門学校 | 専門 | アルバイト |
| 14 | R.N | 九州測量専門学校 | 専門 | 名護市役所 (臨) |
| 15 | H.S | ユミマテク看護専門学校 | 専門 | 看護師 |
| 16 | Y.K | 沖縄大学 | 大学 | 学生 |
| 17 | Y.H | 相愛大学 | 大学 | 学生 |
| 18 | T.T | (株) ナンセイ | 就職 | (株) ナンセイ |
| 19 | T.T | 名城大学 | 大学 | 学生 |
| 20 | H.K | 大阪学院大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 21 | N.S | 大阪経済法科大学 | 大学 | 学生 |

表8 平成21年度 卒業生進学就職先 (18名)

| | 氏名 | 進学先 | 選別 | 就職先 |
|----|-----|---------------|----|----------|
| 1 | S.M | 公務員ビジネス学院 | 専門 | 学生 |
| 2 | N.K | 自衛隊 | 就職 | 自衛隊 |
| 3 | D.N | 浪人、琉球大学 | 大学 | 学生 |
| 4 | C.Y | 明治国際医療大学 | 大学 | 学生 |
| 5 | M.G | 日本福祉大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 6 | N.M | 帝京平成大学 | 大学 | 学生 |
| 7 | A.Y | 岡山理科大学 | 大学 | 学生 |
| 8 | T.K | 那覇日経ビジネス工学院 | 専門 | 学生 |
| 9 | K.M | 勝山病院 | 就職 | 勝山病院 |
| 10 | T.Y | 公務員ビジネス学院 | 専門 | 学生 |
| 11 | M.T | 語学留学 | 大学 | 学生 |
| 12 | M.K | 中京大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 13 | M.A | 関西大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 14 | M.H | 日本スポーツ健康福祉専門 | 専門 | インストラクター |
| 15 | K.A | 自衛隊学校 | 就職 | 自衛隊 |
| 16 | K.M | 東洋医療専門学校 | 専門 | 学生 |
| 17 | K.H | 帝京平成大学 | 大学 | 学生 |
| 18 | S.O | 琉球リハビリテーション学院 | 専門 | 学生 |

表9 平成22年度 卒業生進学就職先 (11名)

| | 氏名 | 進学先 | 選別 | 就職先 |
|----|-----|---------------|----|-----|
| 1 | K.M | 徳島文理大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 2 | T.Y | 沖縄情報経理専門学校 | 専門 | 学生 |
| 3 | K.H | 帝京大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 4 | Y.K | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 5 | T.I | 東洋大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 6 | T.K | 朝日大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 7 | K.M | 青山学院大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 8 | M.N | 帝京大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 9 | K.M | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |
| 10 | S.T | 沖縄国際大学 | 大学 | 学生 |
| 11 | D.T | 九州共立大学 (ラグビー) | 大学 | 学生 |

表10 平成23年度高校3年生進学先 (11名)

| | 氏名 | 進学先 | 選別 | 就職先 |
|----|-----|---------------|----|-----|
| 1 | Y.K | 沖縄国際大学 (ラグビー) | 大学 | 高校生 |
| 2 | H.H | 朝日大学 (ラグビー) | 大学 | 高校生 |
| 3 | H.K | 平成帝京大学 | 大学 | 高校生 |
| 4 | S.S | 陸上自衛隊 | 就職 | 高校生 |
| 5 | H.T | 日経ビジネス専門学校 | 専門 | 高校生 |
| 6 | K.N | 山梨学院大学 (ラグビー) | 大学 | 高校生 |
| 7 | T.H | 東京バイオテクノロジー | 専門 | 高校生 |
| 8 | Y.T | 日経ビジネス専門学校 | 専門 | 高校生 |
| 9 | T.O | 北海道医療大学 | 大学 | 高校生 |
| 10 | G.H | 名城大学 (ラグビー) | 大学 | 高校生 |
| 11 | T.Y | 朝日大学 (ラグビー) | 大学 | 高校生 |

・卒業生140名中87名が大学へ進学した。なかでも65名が競技推薦で大学へ進学している。継続した理由として競技力追求と授業料免除や奨学金等の支援を得て経済的に保護者の負担軽減を目的とし、競技を継続し進学した卒業生がいる。部活動を進路選択機会の拡充す

る場合 (白松,1997) と述べるように、大学への進学する一つの手段として競技継続を活用する考えもあるが、将来の目標とする職業と関連した大学、学部・学科を選択しなければ就職活動に困難をきたす可能性がある。専門学校へ進学した生徒は公務員志望者が多く、警察官、消防士、海上保安庁職員、市役所職員など目指して公務員試験に取り組んでいる。実際に専門学校へ進学した卒業生が公務員へ就職した者は7名であった。また、専門学校も整体師、鍼灸師、調理師など、目的に応じて進学している。

(2) 進学状況及び就職状況

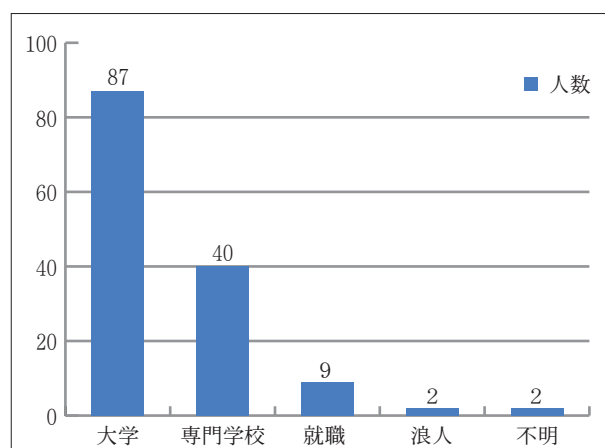


図1 進学状況 (平成23年度3年生を含む)

・大学87名 ・専門学校40名 ・就職9名
 ・浪人2名 ・不明2名 計140名

卒業生の90% (127名) が大学、専門学校へと進学している。136名が進路決定し高校を卒業している。部活動をしながらか進路決定することは困難と予想されるが進路結果から進学率が高いと言える。しかし、調査する上で連絡先が確認できず、進学不明者が2名となった。

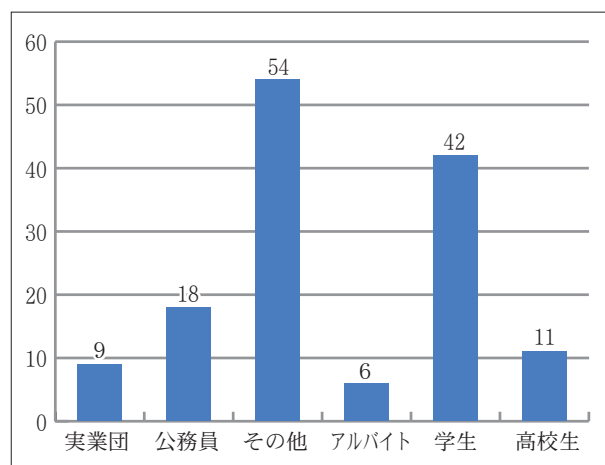


図2 就職状況 (平成23年度3年生を含む)

・企業、クラブ実業団（トップリング・トッピースト）で選手として活躍している卒業生が9名おり、就職とプロ契約に分けられる。また、公務員に就職した18名中、大学卒業生は11名、専門学校から採用となった者が7名であった。それ以外の職種、あるいは被雇用者をその他とし、就職状況を明らかにすることができた。また、沖縄県外、県内と各地に分かれているが調べることができなかった。また、就職不明者は3名となった。

(3) 3年生との個人面談

(5月3日～6日, 8月5日～7日)

GW合宿と夏休み期間中に自学自習時間を確保しながら3年生に対して、進路について個人面談を行った。3年生は11名中6名が競技を継続しながらの進学を希望した。競技を継続し、将来の希望職種と繋がる資格の取得や就職に関する大学情報が必要であり、経済的にも奨学金や授業料の免除など支援を得る事ができる大学の情報を集めて紹介した。専門学校への進学希望者が2名、歯科医師を目指す者1名、公務員受験者2名であった。大学進学希望者の中には1・2年生の頃から目的意識を持って学習に取り組んできた生徒は2名であった。目的意識を持たない事で学業に集中できず、評価平均が低く志望校へ推薦できない生徒もいた。今回の面談を通じて本格的に進路について意識するようになり、大学情報を収集する為に進路室にも足を運ぶようになった。しかし、この時期からの行動では情報収集が限られており十分な受験対策への取り組みができなかった。

(4) 1・2年生との個人面談

(8月22日～30日, 12月3日～5日)

早い段階からの進路意識を持たせる事と学習意欲を高める為に1・2年生の個人面談を行った。2回の個人面談を実施することで進学に対する意識に変化があらわれた。希望する職種が未決定な生徒が多く、興味ある職種に就業体験を活用することを勧めた。中学、高校と就学体験が進路選択に起因しているのを確認できた。この段階から進路について考慮する機会を持たせることによって部員同士で相談し信頼関係を築き、チームの結束を固める事ができた。また、1・2年生を中心に自学自習を行った。特に夏休み期間中の課題に取り組んだ。初めは集中力がなく、おしゃべりが多かったが徐々に課題に向かい合うことができるようになった。3日目からは教室に入れば自主的にできるようになり互いに教え合う雰囲気が出てきた。県外合宿と調整し、夏休み期間も継続して持続できれば学習する習慣が身に付くと予想される。今回は練習終了後、14:00～16:00の2時間を設定し行った。

(5) テスト前学習

(6月14日～20日, 11月21日～27日)

A高校では通常、テスト1週間前は1時間練習となるが、7日前から練習を完全休みにして、全員で学習会を行った。今回は未習得懸念者もいることから、苦手としている教科を中心に学習するようにテーマを与えた。しかし、結果的に未習得懸念者は4名出た。大会派遣に影響を及ぼすことはなかったが、授業中の学習が大切であり、意識して取り組む事の大切さを学ぶことができた。今後も継続してテスト休みを活用して学習に取り組ませ、苦手としている科目を克服させたい。課題点として学習会で教科指導する事が出来なかった。専門教科の教諭に依頼して、指導できる体制を整えたい。また、分からない点をまとめて、休み時間や授業を通じて質問することができるようにする。学習する意欲が高まりつつあるので助長する枠組みができれば、さらに学力向上できる可能性がある。

(6) 1・2年生進学調査意識の変化

①8月

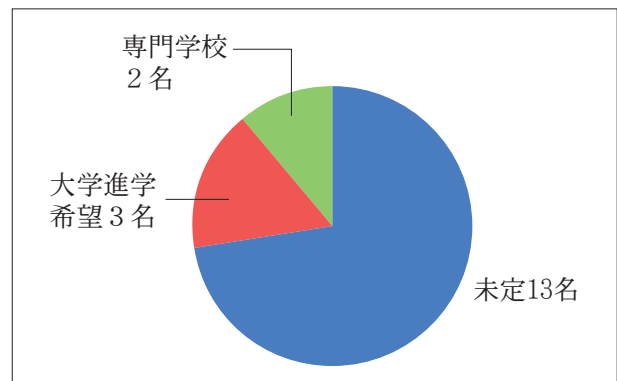


図3 1年生 (18名)

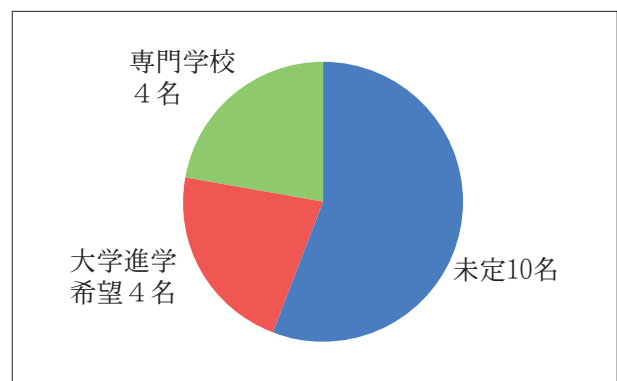


図4 2年生 (18名)

・特徴として、将来について漠然と考え、進路について深く考えていない生徒が多かった。1・2年生ともに進学先について「未定」と答えたが生徒が多い。希望する大学が決定している生徒は目的意識を持ち、学習意欲と競技への取り組む意識も高いと言える。1・2年生を比較すると2年生は進学希望者が8名と僅かに多いが、詳しい志望先は決まっていない。1年生の中には高校へ進学し、満足している生徒も多く、特に将来については何も考えていない生徒が多かった。早い段階から、面談を繰り返し行い、自分の進路について考える機会を与え、具体的に情報を得る事で進路意識と学習意欲が向上すると予想される。

②12月

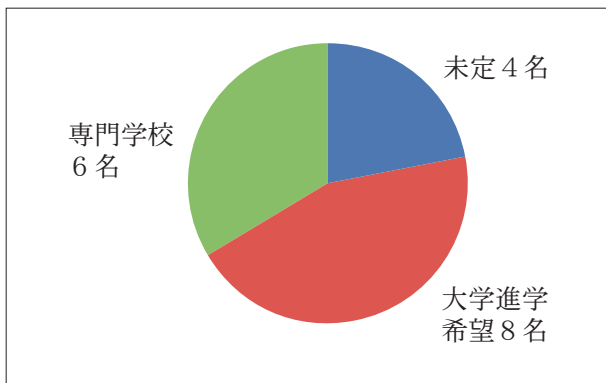


図5 1年生(18名)

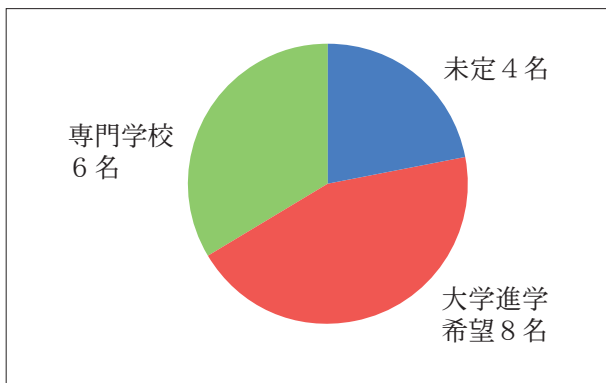


図6 2年生(18名)

・12月の面談においては、調査した卒業生の進路結果を資料とし、説明することで1・2年生ともに進学希望者が増えた。進路未定者数が減少し大学進学希望者、専門学校への関心が高くなっている。将来の希望職種について考慮し、詳しい情報を調査しなければならない。また、進路未定者も興味関心ある職種から就職につながる進学先を自ら、求める必要がある。

5. まとめ

本調査は以上の考察結果から、次のように概括される。

(1) A高校ラグビー部卒業生の進学状況及び就職状況を明らかにすることができた。卒業生140名中88名が大学へ進学した。なかでも65名が競技推薦で大学へ進学している。大学卒業後、実業団や企業に競技選手として就職あるいはプロ契約する選手は9名となった。選手生命は限られており引退後、社員として継続できるのかまたは、セカンドキャリアとしてコーチや指導者、競技関係に属して活動するか引退後も想定して就職しなければならず、ライフワークを常に意識しなければならない。公務員となり就職した卒業生は21名となり、教員や市役所職員はクラブチームで競技を継続しているが警察や消防、海上保安庁は負傷した場合は職業に影響を及ぼすため競技活動は行っていない。自衛隊に限っては特殊部隊としてラグビー部所属となり活躍している。その他、就職した卒業生は沖縄県内、県外各地にて働きながらクラブチームに所属し、楽しむ者と競技から離れた者に分かれている。

(2) 3年生への進路意識を持たせる為に個人面談や学習会等に取り組むことで、明らかに進路に対する意識が芽生え、行動が見られた。しかし、3年生からの活動では十分な対策ができなかった。将来の就職について考える機会を学校や学級、進路部で総合学習の時間を活用し、講話やアンケート等を行っているが部活動を通じての「キャリア活動」も重要な活動と言える。競技を継続し進学するか、継続せずに進学するかの早期決定により、進学状況も変化する。1・2年生も同様に早期の段階から「キャリア教育」を促すことで学習態度の形成、学習活動への取り組み方も変化する。

(3) 今回、得られた資料を今後の運動部活動生に活用することで「キャリア教育」の一端とし、各競技で追跡調査を行うことで一資料となり、進路指導も幅広く行うことができると考えられる。また、生徒自身が主体的に進路の模索や探究活動する環境作りが必要である。進路指導部と運動部活動顧問との連携協力によって生徒の環境の一要因を形成できる。

6. 今後の課題

課題として、就職先に関する詳しい調査まで至らなかった。業務内容や賃金、福利厚生に関する内容もあれば、進路情報に関する資料として有意義なものになる。継続した進路指導実践、部活動と学力向上の研究を詳しく追及していく必要がある。

残念ながら、大学入試センター試験を受験する生徒は2名だけであった。今回は特定した部活動だけの進路状況と就職調査、当時の在學生についてまとめたが、学内における全部活動の実績結果と進学先との比較や部活動を通じて、職業観育成を目指す事で生徒の学習効果も高まり、大学入試センター試験を受験する生徒も増加すると予想される。また、キャリア教育の目標と内容に位置づける活動として、地域社会を巻き込み、ソーシャルキャピタルによる地域連携、そして、学校・生徒・保護者との三位一体の連携協力が不可欠である。今後も生徒に有意義な進路指導とキャリア教育の探究に努める必要がある。

7. 参考引用文献

- ・尾川満宏 2016 部活動経験によるキャリア意識の分化 —工業高校生を事例にした基礎的分析— 愛媛大学教育学部紀要 第63巻 p74
- ・菊池則行 1988 進路選択で能力・興味の「可能性」を重視するが末井の進路意識、発達経験に関する研究 CAREER GUIDANCE STUDY No9 p1
- ・白松賢 1997 高等学校における部活動の効果に関する研究 日本教育経営学会紀要39 p74
- ・寺田盛紀 2005 キャリア形成（学）研究の構築可能性に関する試論 生涯学習・キャリア教育研究, 1, 3-15
- ・松本浩司 2008 高校生の職業観の構造と形成要因 —職業モデルと関連を中心に— キャリア教育研究 p57
- ・山口政志 1986a 中学校・高等学校 進路指導の理念と展開 実務教育出版 p51
- ・山口政志編著 1986b 進路学習の特色ある実践 実務教育出版 p3

